



# 高血圧や加齢

## 危険因子に

### 大脳白質病変

医者のアドバイスを、どうしても受け入れてくれない患者さん。やはり荒療治しかないか。でも、香港のようになったら困る。

64歳のSさん。ずっと、血圧が140/50/90台と高い。立派な高血圧だ。あちこちの医者から、降圧剤の服用を勧められている。が、「一度のみ始めたら、死ぬまでのまなげればならない」とか、「副作用だってある」などと、とにかく嫌がる。かといって、減塩も運動療法もしない。一計を案じて、頭のMRI（磁気共鳴画像装置）検査してみた。思っていた通り、脳の内側に「大脳白質病変」と呼ばれる白い斑点がいくつもみられる。Sさんの場合は、

高血圧が原因だ。

白質病変というのは、脳の神経線維が走る白質という部位にできる。高血圧や加齢、糖尿病、肥満、喫煙などよって、白質を走る細い脳動脈が動脈硬化を起こす。硬くなった血管の中の血流が悪くなる。時には、血管から水分が漏れ出したりする。

それで、白い斑点が見えるようになるのだ。でも、白質病変が見付かっても、多くの心では、頭痛も目まぐるしいも、症状など一つもないのである。

しかし、症状がないからと油断してはいけない。白質病変は、経過とともに進行する。まず、改善するということはない異常である。加齢は仕方がないが、ことに高血圧やその他の危険因子をそのままにしておけば、間違いなく白質病変の進行は早い。そして、高度の白質病変となれば、統計上、脳卒中や認知症が起きやすくなるのだ。

このついに、Sさんは、まだ分かってくれない。「このままだと、手足が動かなくなるか、認知症だ」と言いたくなる。が、オットと。それは、脅しスカシの類いだ。いや、立派なドクハラだ」と反撃されそう。この頃は、医者の仕事も楽じゃなご。

（石黒修三 いしぐろクリニック

・脳神経外科専門医、金沢市在住、射水市出身）

イラスト・野畑桃花

